

第1章

プーチン、ついに堪忍袋の緒が切れた!

— アルマゲドン将軍の登場、ようやくウクライナ全土にミサイル攻撃



モスクワ郊外で、自家用車に仕掛けられた爆弾によって殺された
ダリア・ドゥーギナ、その父親のアレクサンドル・ドゥーギン

<https://www.abc.net.au/news/2022-08-23/alexander-dugin-pays-tribute-to-daughter-darya-dugina/101363564>

1

ドンバスの住民投票が成功し、8年余りも求め続けてきた住民の願い「ロシアへの編入」がやっと叶えられました。

これでロシア軍の「特別作戦Z」も一応の任務を終え、ウクライナにおけるロシア軍とドンバス軍との連合軍の任務も一つの山を越えたことになります。

そこで私も、ウクライナにかんするブログを書くのを一休みしたいと考えました。もともと書きたいと思っていた「研究所：野草・野菜・花だより」や「寺島メソッド健康教室」に筆を移せるからです。

ところが、そう思っていた矢先に、クリミア大橋の爆破という事件が起きました。しかも、プーチン大統領「70歳の誕生日」に合わせての爆破でしたから、



クリミア大橋の爆破に狂喜して写真をとるウクライナ人
ウクライナ郵政省が発行した記念切手の看板前で

この事件やその後の展開についても書かざるを得なくなり、困っています。

2

これまでもロシアは、ノルドストリームという、液化天然ガスをドイツに輸送する海底パイプラインが爆破されています。また「プーチンの側近」と欧米のメディアでは騒がれている「高名な」哲学者の娘が、モスクワ近辺で暗殺されています。

ちなみに、この「プーチンの側近」と言われていた「高名な」哲学者は、ロシアではそれほど有名ではなく、しかもプーチン政権では一度も役職についたことがないので、西側のメディアが「プーチンの側近」と騒いでいたことも、全く根拠のないものでした。

それはともかく、今まではウクライナ国内ではゼレンスキー大統領の方針に疑問をもったり批判したりする人物は、政治家であれジャーナリストであれ、多くの人が、キエフ政権が半ば公認している有名な「暗殺リスト」に載せられ殺されてきました。

それが今は、キエフ軍の砲撃にさらされている住民の惨劇を伝えようとドンバスで体を張って取材を続けている外国人ジャーナリストまで暗殺の対象になってきました。

たとえばドンバスで活動している有名なカナダ人の女性ジャーナリストのエバ・バートレットも暗殺リストに載りました。

ところがキエフ政権は、ウクライナ国内で活動している外国人だけでなく、ロシア国内にまで暗殺の手を伸ばしました。それが、哲学者アレクサンドル・ドゥーギンの娘ダリア・ドゥギナの暗殺でした。

ちなみに、この「暗殺リスト」はウクライナ語で「Mirotvorets」（英語にするとPeacemaker 平和創造者）という、ふざけた名前が付けられています。

この詳細は既に拙著『ウクライナ問題の正体1〜3』で詳しく説明しましたので、ここでは割愛させていただきます。

3

このようにキエフ政権は、ウクライナの国内だけでなく、国外でも暗殺に手を出すようになってきたので、危機を感じたジャーナリストたちはモスクワで国際会議を開き、この暗殺リスト「Mirotvorets」（ミロトヴォレッツ）を閉鎖するよう国連の人権委員会に申し入れする決議を採択しました。

* Journalists Demand the Mirovovets Site Be Classified a Terrorist Organization and Shut Down

「ジャーナリストたちは要求する。ミロトウォレットのサイトをテロ組織に分類し、閉鎖する」

<http://tmmethod.blog.fc2.com/blog-entry-1104.html> (翻訳NEWS) 2022/09/10)

モスクワで会議を開いたのは、EUやアメリカで開くと、欧米でもネオナチの世界組織がありキエフ政権と連帯していますから、いつ殺されるか分からないからです。この会議に参加していた記者のひとりには、「今では自家用車で出かけるとき、車体の下に何か爆弾が仕掛けられていないか点検するようになった」と語っていました。

先述のエバ・バートレット記者も自分がカナダに帰国したら暗殺されるかも知れないので怖くて祖国に帰れないと言っています。それどころか、ドンバスの住民投票に国際監視団の一員として参加した女性記者アリーナ・リップは、驚いたことに、「偽情報」を流したとして、ドイツ政府によって起訴までされているのです。

このようにキエフ政権は外国人まで標的にするようになっていっていますが、その有名な例はロックスターのロジャー・ウォーターズやアメリカ政府の元高官キッシンジャー(元国務長官)でしょう。が、もうひとり最近話題になったのはアメリカの大富豪イーロン・マスクでした。



Дата рождения: 28.06.1971

Страна: США



Покушение на территориальную целостность Украины.

Участие в попытках легализации аннексии Крыма Россией.

Дата рождения: 28.06.1971

Американский предприниматель, миллиардер 14.10.2022 компания Илона Маска SpaceX отказалась оплачивать услуги спутниковой связи Starlink для Украины, тем самым нанесла удар по критической инфраструктуре страны. Также Илон Маск неоднократно содействовал российской пропаганде, например, публикуя «план урегулирования конфликта», в котором призвал признать Крым российским

Центр «Миротворец» просит правоохранительные органы рассматривать данную публикацию на сайте как заявление о совершении этим гражданином осознанных деяний против национальной безопасности Украины, мира, безопасности человечества и международного правопорядка, а также иных правонарушений.

14.10.2022 10:36 SBU

Поскаржитись

暗殺リストに載せられた大富豪イーロン・マスク

先述のエバ・バートレット記者がイーロン・マスクに「あなたも暗殺リストに載りましたよ」とツイッターで知らせたところ、マスク氏は「そんなサイトがあるとは知らなかった」「そのURLはどこにあるんだ」と、その無知ぶりが氏の「追っかけ」の間で話題になったからです。

* Elon Musk discovers Ukrainian 'kill list'

「イーロン・マスク、ウクライナの「暗殺リスト」を発見」

<http://immedioblog.fc2.com/blog-entry-1096.html> (翻訳 NEWSJ 2022/10/16)

イーロン・マスクがこの暗殺リストに載るようになったのは、彼が「ウクライナはクリミアをロシアに譲ってでも停戦し、和平交渉に移るべき」という提案をしたからでした。

キッシンジャー元国務長官もドンバス2カ国を含めて似たような提案をして暗殺リストに載せられたのですが、それよりもはるかに緩やかな提案すら、ゼレンスキー大統領は許せなかったのでしょうか。



暗殺リストから赤い斜線で「清算された」ダリア・ドゥーギナ

4

ところがマスク氏が調べてみると、本当にそのようなサイ
トが二〇一四年から存在し、キエフが暗殺に成功した人物は
その顔写真に「清算済み」(liquidated) という赤い斜線が引か
れていることを知り、愕然としたそうです。

この間の事情を先述の記事は次のように伝えていきます。

ミロトウオレットツ (Mirovoretz) は二〇一五年、ウクライナ
の作家・歴史家オレス・ブジナ (Oles Buzina) と政治家オ
レグ・カラシニコフ (Oleg Kalashnikov) が、このサイトにプ
ロファイルが掲載された後、暗殺されたことで悪評が広まっ
た。(中略)

人権活動家は、このウェブサイトが327人の子どもの個人
情報すら掲載していることを発見した。ロシア当局はこの
「巨大な不正」にたいする懸念を国連のアントニオ・グテー
レス事務総長に伝えた。

財団「抑圧と闘う」(the Foundation for the Fight against

Repression)の代表によると、このウェブサイトには、最も若い子で10歳にもなっていない子どもたちの名前、住所、写真、ソーシャルメディアなどの個人情報すら掲載されている。

驚くべきことに、ここには327人の子どもの個人情報すら掲載されていたのです。

しかし心ある人権団体や先述のジャーナリストの国際会議が、このサイトの閉鎖を訴えたにもかかわらず、国連も欧米政府も一向に動こうとはしませんでした。

そして欧米のメディアも同じく、これらの暗殺に関して、口を閉ざして語ろうとはしてきませんでした。キエフ政権によるドンバスへの8年以上にもわたる砲撃・虐殺に関して同じです。先述のバートレット記者は、これについて再び次のように報じています。

* Western Media and Politicians Prefer to Ignore the Truth about Civilians Killed in Donetsk Shelling


「西側メディアは無視し続ける。ウクライナが、NATOの武器を使ってドンバスの無実の一般人を殺害している様子」
<http://tmmethod.blog.fc2.com/blog-entry-1085.html> (翻訳NEWSJ 2022/10/18)

またバートレット記者自身がこの暗殺リストに載っている様子を、次のビデオ記事から知ることができます。




* Video: Award-Winning Canadian Journalist Eva Bartlett on Ukraine "Kill List" as Canadian Government Does Nothing

「暗殺リスト」に載せられた
エバ・パートレット記者

Бартлетт Эва Карен / Burtlett Eva Karene / Bartlett Eva Karen



Дата рождения: 14.06.1977
Страна: Канада
Адрес: Онтарио



Пропаганда российского нацизма и фашизма.
Участие в информационной спецоперации России (страна-агрессор и террорист) против Украины.
Информационная поддержка открытого военного нападения фашистской России на Украину.
Покушение на суверенитет и территориальную целостность Украины.
Соучастник преступлений российской власти против Украины и ее граждан.
Участник т.н. «Международной конференции «Доказательства массовых военных преступлений вооруженных сил и подразделений Украины»».

「カナダのエバ・パートレット記者はウクライナの『暗殺リスト』に載せられているのにカナダ政府は何もしようとしない」

<http://immethodblog.fc2.com/blog-entry-957.html> (翻訳NEWS[2022/07/01])

5

少し話がそれましたので、イーロン・マスクの話に戻ります。

イーロン・マスクは、このようなサイトがキエフ政権によって半ば公認で公開されていることに懸念を表明し、今までウクライナ政府に無料で提供していた衛星情報を中止すると発表しました。

すると、たちどころに彼は暗殺リストから削除されました。衛星情報の無償提供が中止されてしまうと、ロシア軍の動向をマスク氏が運営する宇宙衛星スターリンク (Starlink) から得ていたウクライナ軍としては、おおいに困ったからでしょう。この間の

事情を先述のニュースは次のように伝えていきます。

キエフ政権が半ば公認している「暗殺リスト」のサイトにマスク氏が登場したという情報が、この2日間ソーシャルメディア上で話題になっていた。

というのは、アメリカ国防総省がマスク氏の会社の損失を補填することに同意しない限り、マスク氏はウクライナのために無料で提供していたスターリンク（Starlink）のサービスを打ち切るという報道が流れていたからだ。

ところが土曜日に、マスク氏は突然のUターンをして、「もういいや……ウクライナ政府に無料で情報を提供し続けるよ」と言った。

これを見ると、キエフ政権の軍事行動がペンタゴン（国防総省）のお墨付きの下でおこなわれていることを、マスク氏も知っていたことになりました。

つまり「俺はウクライナ軍にペンタゴン（国防総省）のことを思って、スターリンクのサービスを無償で提供していたのに、その俺を『暗殺リスト』に載せるとは何事か。今まで無償で提供していた金額をペンタゴンは弁償しろ」と主張したわけです。

しかし、暗殺リストに載ってから2日後に自分の名前がサイトから消されたことを知って、前言を取り消したのです。

それにしても、自分の提言がゼレンスキー大統領から不興を買うことが分かっているものなのに、暗殺リストから名前が消えただけで、スターリンク・サービスの無償提供を復活するというのは、何という信念のない男でしょう。

氏が本当にこのウクライナ紛争が核戦争になりかねないことを懸念した提案ならば、むしろ「俺の提案を真剣に検討する気がないならスターリンク・サービスの無償提供を中止する」と言い続ければよかったのに、と思うのは私だけでしょうか。

それとも氏の提言は、このウクライナ紛争を利用した、単なる売名行為だったのでしょうか。

6

しかし、マスク氏の最近の発言を読み返してみると、必ずしも売名行為ではないのかも知れません。というのは後掲の記事でマスク氏は次のように言ったと書かれていたからです。

「プーチン大統領が述べているように、ロシアの核ドクトリンでは、国家の存在が脅かされ

場合、『利用できる全ての手段』で自国を防衛することが認められている」

マスク氏は、「好むと好まざるとにかかわらず、ロシアにとってクリミアは絶対に失ってはならないロシアの中核と見なされている」と続けた。

「クリミアは、ロシアにとって南方の海軍基地であり、国家安全保障上も非常に重要な場所だ。彼らの立場からすれば、クリミアを失うことは、米国がハワイや真珠湾を失うようなものだ」
クリミアは、一九五四年にソ連のニキータ・フルシチョフ首相によってウクライナ社会主義共和国にプレゼントされるまでは、すなわち一七八三年から一九五四年までは正式にロシアの一部であった。

マスク氏は今月初め、フルシチョフの決定は「間違い」だったと主張し、将来のロシアとの和平交渉の一環として、ウクライナがクリミア半島の領有権を放棄することを提案した。

* Musk claims Russia would use nukes to defend Crimea

「国家存亡に関わる生命線」クリミアを失う危機に迫り込まれた場合、ロシアは核兵器を使わざるを得なくなるかも知れない、とマスク氏は主張」

<http://unnmethod.blog.fc2.com/blog-entry-1097.html> (翻訳NEWS]2022/10/22)

つまりマスク氏の目からすると、この戦争では「キエフ政権がクリミア奪還を主張し続ける限り、ロシアは核兵器を使わないと負ける」と考えているのです。

しかし、NATO軍やアメリカ軍は、アフガニスタンとの戦争に負けて、多くの「巨額

の武器」を置き去りにしたままアフガニスタンから撤退せざるを得ませんでした。

いわば鉄砲を手にしたNATO軍やアメリカ軍は、竹槍たけやりを手にしたタリバン軍を相手に戦っていたはずなのに、最後は取るものも取りあえず、慌てふためいて逃げ出さざるを得なかったのです。

私はアフガニスタン戦争が一時期「小休止」をしていたとき、日本国際理解教育学会主催の海外視察団の一員として首都カブールを訪れ、爆撃で破壊された街と荒廃した学校をNGOが援助する様子を見る機会を得ました。

そのときにカブール近郊にNATO軍も駐留していることを知り驚いた記憶があります。というのはアフガンに進駐しているのはアメリカ軍だけだと思っていたからです。

ところが、NATO軍とアメリカ軍の連合軍すら、装備が貧弱なはずのタリバン軍に勝てなかったわけです。だとすれば、チェチェンやシリアでイスラム原理主義勢力と戦って百戦百勝を続けてきたロシア軍が、ウクライナ軍と戦って負けるはずがないのです。

マスク氏にしてみれば、ウクライナ軍が負けた後はNATO軍とアメリカ軍の出番となり、ロシア軍はその連合軍と通常兵器で戦って勝てるはずがないと思ひ込んでいるのかも

知れません。だからロシアの核兵器の出番となる、と思ったのでしょうか。

しかし、何度も言いますがNATO軍とアメリカ軍は、装備が貧弱なタリバン軍にすら勝てなかったのですから、ロシア軍に勝てるはずがないのです。このことを見事に表現しているのがポール・クレイグ・ロバーツ元財務次官です。

「プーチンは3日で終わる戦争に3カ月もかけている」「民間人の被害を最小限にするためにというのは分かるが、それでは戦争が長引き、ロシア軍は疲弊するのみだ」というのが、ロバーツ元財務次官の言い分でした。

これも拙著『ウクライナ問題の正体1・2』で繰り返し紹介しました。ここでは、プーチン大統領にたいして「お人好しのロシア人」という辛辣なことばすら投げつけています。ロバーツ元財務次官は、自分の最新のブログでも次のように書いています。

* Putin Misplays His Cards, what Could Have Been a Winning Hand has become the Road to Armageddon
「プーチンは勝てるカードを使い損ねている。勝てる手があったのに、今や使い損ねて、世界最終戦争への道を歩んでいる」
<http://mmethod.blog.fc2.com/blog-entry-1100.html> (翻訳NEWS] 2022/10/25)

7

つまりロバーツ元財務次官は、通常兵器を使っても、ロシア軍はウクライナ軍を叩きの

めず機会はいくらでもあったのに、いつも中途半端なところで撤退し、戦いを長引かせていると言うのです。

『孫子の兵法』『作戦篇』には「長期戦は百害あって一利なし」「戦いは素早く勝利すべし」という項目があるのですが、プーチン大統領の戦略は、この戦いの原則を全く踏みにじっているわけです。

ウクライナ軍は民間人を盾にして戦いますし、砲撃も戦争法を無視して、民家であろうが、学校・病院・劇場などの公共施設であろうが、これを砲撃してきました。

これはEUの査察機関でさえ認めている事実なのですが、エバ・バートレット記者に言わせると、一度もそれが公おおせになった例たぬがありません。

他方、先述のように、ロシア・ドンスバス連合軍は常に民間人や公共施設の被害を最小限にするような戦い方をしてきました。

ところがロバーツ元財務次官に言わせると「それはロシア軍の弱さあつらの顕れあはれとしかゼレンスキー大統領の目には映ってこなかった」「だから欧米から送られてくる武器さえ届けば勝てる」と思い込ませる結果になっていると言うのです。その結果が「クリミア大橋の爆破」となったというわけです。



<https://www.globalresearch.ca/year-lying-about-nord-stream/5833986>
 ロシアと欧州を結ぶガスパイプラインの全体像(点線は建設予定)
 X印がノルドストリーム1&2の爆破地点

ツ元財務次官は言っています。

ところが「プーチンはいまだに、『これは時間はかかるが修復可能だ』と言って、ロシア

また『孫子の兵法』『謀攻篇』の最初に「戦わずして勝つ」という項目が置かれています。ところがロバーツ元財務次官は、この「謀攻篇」を読んでいるはずなのに、基本的には同じことを言っています。なぜなら先述のブログで、ロシアからドイツまで走る海底天然ガスパイプラインを破壊したのはアメリカであり、それは潜在的にはアメリカの競争相手になる可能性を持つEU（とりわけドイツ）を経済的に破綻させることが目的だと、ロバー

に敵対するEUへ天然ガスを送る姿勢を維持している」とロバート元財務次官は怒り狂っています。

しかし、海底パイプラインを破壊される前に、「ロシアへの経済制裁やウクライナへの武器供給をやめないかぎり、ロシア産の天然ガスはアジアに振り向け、EUへのガスや石油の供給は停止する」と言いさえすれば、ロシアは武力を使わなくてもウクライナ軍に勝利できた、とロバート氏は言うのです。

なぜならその時点でEU諸国からの武器の援助も金銭的援助も中止され、ウクライナ軍にはロシア・ドンバス連合軍と戦う武器が手元になくなるからです。既に拙著『ウクライナ問題の正体1・2』でも指摘したことです。アメリカや欧州から駆けつけた外国人傭兵も、彼らが渡された武器のあまりの貧弱さに驚き、早々に帰国しているのです。

更に加え、ロシア産の天然ガスが来なければ一般民衆は厳寒の冬を越せないだけでなく、工場や会社を動かす電力も欠乏しますから、倒産・閉鎖が相継ぐことになります。そうすればEU各国の民衆は政府に反乱を起こすかも知れません。

つまり「戦わずして勝つ」ことができるわけです。